

こんな活動です

「ふるさとを愛し、夢をもって学び続ける児童の育成」 ～学校運営協議会の活動を通して～

熊本市氷川町		●活動名 氷川町立竜北東小学校 学校運営協議会			●関係する学校名 氷川町立竜北東小学校	
協働活動開始年度	平成 21 年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成21年4月1日設置	地域学校協働本部	有	
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 3人			
ボランティアの数	延べ登録人数 459人	企業・NPO等との連携	有	ICT機器活用	有	
参考URL	https://es.higo.ed.jp/ryuhokue/					
●連絡先	氷川町立竜北東小学校			☎ 0965-62-3800		

竜北東小学校 公式キャラクター 「ゆめぼん」

右側が梨、左側がい草です。
私は、氷川町の特産品「吉野梨」や「い草」を大切にしたいです。温かい心でつながってほしいという想いを込めて「ゆめぼん」を描きました。
現在：竜北中3年生 H.Tさん作
(当時：竜北東小6年生)



●活動の概要・経緯
氷川町立竜北東小学校の学校運営協議会では、これまで児童の学習支援や家庭教育支援等の課題について熟議を重ね、課題解決に向けた活動に取り組んできました。その原動力となったのが、11年目を迎えた地域学校協働本部である。3人の推進員が中心となり、学校運営協議会の充実・発展に大きな役割を果たしている。
現在は、学校運営協議会活動を更に進め、これまで地域から様々な支援を受けてきた児童が、今度は主体的に地域のためにできることを検討し、地域貢献活動を行うという取組に発展させることができている。また、平成30年度から地域の支援を得た起業体験活動にも取り組んでいる。児童の職業観や勤労観を育成する取組に地域の教育力を活用することで、児童が地域の良さを再発見し、郷土愛を育む取組となっている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 地域学校協働活動の原点として、地域の思いを大事にすることを大切にして取り組んできました。児童が地域貢献活動を行う際にも、学校の思いだけでなく、地域住民の声を聞き、地域とともに活動を創り上げてきた。
- 中学校区拡大学校運営協議会を組織し、児童・生徒と学校運営協議会委員が地域の歴史や良さを学び、ふるさとの未来について語り合う交流会を毎年行っている。
- 地域住民の支援を得た起業体験活動では、地域の特産品(吉野梨等)を使った商品を地元の農業高校や企業等と連携して研究・開発を行い、本町の祭りである「氷川まつり」で披露・販売し、地域行事成功の一翼を担うことができた。
※中学校区拡大学校運営協議会：中学校区にあるすべての学校運営協議会が合同で行う協議会
※起業体験活動は、平成30年度文部科学省委託事業「小・中学校等における起業体験推進事業」による実践

【実施に当たっての工夫】

- 校長と学校運営協議会委員が熟議を重ねて目指す子ども像を共有し、それぞれの立場で受け止めた地域の願いを地域学校協働活動に反映させている。
- 中学生のリーダーシップの発揮と小学生が先輩への憧れを抱く「出会いの場」として企画した交流会で、推進員のコーディネートにより「ふるさとの繁栄をもたらした先人の努力と足跡を学ぶ講話」を設定した。
- 起業体験活動では、「夢」を持つことを大切にし、児童が多くの「人・もの・仕事」と出会えるように、3人の推進員が大きな役割を果たしている。

【関係機関・団体等との連携状況】

- 地域学校協働推進員を学校運営協議会の委員として任命することで、熟議の段階から深く関わることができるようにすることで、一体的な実践が可能となるようにしている。
- 学校運営協議会委員に区長会、民生委員会、老人会、婦人会等の地域団体からのメンバーを選任することで連携強化を図るとともに、農業関係者、商工会、高校等との連携により活動内容の充実を図っている。



古墳手つなぎ編

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 保護者へのアンケートでは、地域学校協働活動について、「地域の方々の協力で、子供たちは大きく成長している。」「子供たちは地域から多くのことを学んでいる。」「様々な体験活動で、どの子も生き生きと活動していて感心した。元気をもらった。」等の意見が聞かれた。地域と一体となって行う地域学校協働活動は、児童の健全育成に効果を発揮している。
- 全国学力・学習状況調査の児童質問紙結果では、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という項目において肯定率88.9%(全国平均68.0%)であった。地域学校協働活動を充実させることにより、児童は地域への関心を高め、地域に貢献しようとする気持ちを持つようになり、ふるさとへの思いを大切にすることが育っている。

●その他

- 起業体験活動では、児童が商品を販売するためにタブレットを活用し、チラシや商品ラベルを作成した。また、町役場と連携し開発商品の販売や地域の良さをPRする活動を実施。さらに、児童や地域住民の様子を動画発信した。
- 地域行事である「氷川まつり」で開発商品の販売を行い、多くの地域住民に喜んでもらうことができた。児童も祭りの成功に貢献できたという充実感を味わい、氷川町の一員として地域を活性化させる喜びを得ることができた。併せて、推進員をはじめ学校運営協議会委員、児童を支えた地域住民も「やりがい」「生きがい」を感じる場となり、地域全体が元気になった。



梨農家での収穫活動



地元の高校と連携した商品開発(収穫した梨を利用)



氷川まつりでの販売活動